

令和2年度石川県環境審議会 議事録

1 日 時

令和2年8月24日（月）15：00～15：50

2 場 所

石川県庁行政庁舎11階1105会議室

3 出 席

青海委員、池本委員、浮田委員、門村委員、金井委員、神谷（隆）委員、神谷（ま）委員、城戸委員、汲田委員、河内委員、笹井委員、新委員、永井委員、中村（浩）委員、西出委員、野口委員、早川（和）委員、早川（芳）委員、林委員、番匠委員、福田委員、二口委員、古池委員、丸山委員、矢田委員、米澤委員

計26名

4 議 事

（1）会長の選任及び会長職務代理者の指名について

委員から会長に早川（和）委員を推薦する旨の発議、異議なく了承

早川（和）会長から、丸山委員を会長職務代理者に指名、異議なく了承

（2）部会に属する委員及び専門委員の指名について

一覧表を配付、異議なく了承

（3）部会長

早川（和）会長が指名、異議なく了承

5 報告事項

（1）石川県環境審議会部会報告について（資料2）

事務局から、前回審議会以降に開催された部会の審議状況を報告

（2）令和2年度における主な環境施策の取組について（資料3）

事務局から、令和2年度における主な環境施策の取組について報告

6 その他（意見交換）

議事、報告事項について、各委員から以下の発言があった。内容は以下のとおり。

（委員）

1頁目の基本的な考え方・主な取組の中で、気候変動の影響への適応ということで、これから気候変動は緩和に加えて適応が非常に重要な政策になっていくだろうという中で、石川県気候変動適応センターを拠点として情報提供することで、これは非常に時宜を得た施策かと思うが、具体的な内容について、お聞かせいただけたら。

（生活環境部長）

本県で新たな計画を作り、明記をさせていただきましたが、これまでも、気候変動の対応につきましては、庁内の連絡会あるいは国の機関を含めた連絡会議というものを、ずっと設置してきたところでございます。

今回、この計画の策定にあたり、その事務局をそのまま石川県気候変動センターというふう
に拠点とさせていただいて、記載の取組を推進していこうと、今進めているところでございま
す。

(委員)

2頁目の循環型社会の形成についてです。産業廃棄物について、以前の会議でも伺いました。
その頃は、まだコロナの問題はそんなに深刻ではなく、防護服やシールド、マスクが一体どれく
らいどこへいくのかという質問をしたら「大丈夫です」というお答えを得たので安心してい
ました。その後事態は益々悪くなって、すごい数の防護服やシールドの廃棄、マスクはもちろ
んのこと、人口の数だけマスクが捨てられます。残念ながら海洋ごみで、マスクがたくさんぷか
ぷか浮かんでいると聞きます。新しい問題なので、即対応して、どういうふうに廃棄するの
か伺いたいです。

例えば環境の先進国ドイツでは、マスクを売るときに廃棄方法も付け加えて売るのでしょ
うか。何か他の国に良いアイデアがあったら聞かせてほしいです。石川県では急に増えた防
護服とシールド、マスクが、きちっと産業廃棄されているのでしょうか、お聞きしたい。

(生活環境部次長)

新型コロナウイルスの感染の疑いのある方が出したティッシュやごみ、マスクを含めた、そ
ういふものの廃棄については、国の方でガイドラインが示されており、具体的には、ごみ
を出す際にはごみに直接触れないこと、ごみ袋は、ごみ袋が破れないようにしていただく
ため、ごみがいっぱいになる前に空気を抜いてからしっかり縛って出すこと、ごみを捨て
た後は石けん
で手を洗うことなどを心がけていただきたいということでございます。皆様方に対して
県のホームページ、市町村を通じて、ごみの捨て方について周知を行っているところで
あり、引き続き行ってまいりたいと思っております。

(委員)

資料3の自然と人との共生について、2つ要望したい。

1つは、つい先日、石川県のレッドデータブックという絶滅危惧の動植物等を網羅した資料
が刊行されました。私も関係者の一人で、大変重要なものですが、そこにはデータがた
くさん挙げられているだけで、どういうことが書いてあるかが分かりにくい。色々な重要
なデータをデータベース化して地図上にマップするとか、今、GISの技術がたくさんあり
ますし、誰でも分かるような可視化をしないと、石川県の生物多様性にどういふ問題が
起こって、どうしたらいいかということについて県民の皆さんと一緒にやっての議論が
できないと思う。生物多様性だけではなく、その他のいろいろな重要な環境データがあ
りますから、データベースとして活用できるように一緒に可視化してほしいと思いま
す。

具体的に申し上げますと、石川県は里山里海をはじめ生物多様性に富んでいるが、ど
こがホットスポットなのか、どこに貴重な絶滅危惧の生きものが集まっているかとい
うことをホットスポットとよく呼んでいますが、いろいろな種類を一つの地図にまと
めてプロットするようなことが必要ではないかと思えます。

それ以外に例えば、トキが佐渡から飛んできたり、豊岡からコウノトリが飛んできたり
して新聞によく出ていますね。県のどこにいつ頃飛んできているのかをデータとして
地図の上にプ

ロットして、このあたりが大事だと分かるようにしてほしい。今、努力されていると思いますが、急いでいただきたい。

更に困った問題、例えば熊が出没したり、猪が被害をもたらしたり、ニホンジカが北上していますね。どこで熊が人を襲っているか、猪がどういう問題を起こしているか、猪の病気がどこで出ているのかについて、そういう問題について地図の上でまとめて一緒に見えるようにしないと、考えることができない。ぜひそういうことを実現してほしい。

更にエネルギーの問題では、山の中にも海上にもあちこちに風車が次々できてきます。メガソーラーも必要だと思いますが、どこに何が分布しているのかを一つ一つ審査しているだけでは分からないので、まとめて地図の上に表して議論しやすいようにしていただければありがたい。

それから環境アセスが必要な大きな環境開発をしているところがどこにあるのかも地図の上にプロットして、生物多様性のホットスポットとバッティングしていないか、いろんな重要なデータが既に集まっているが、それを総合的に判断するには、今のままのデータの一覧では分からないのではないかと。

もう一つは、石川県ではトキに特別の思いがあると思います。例えば10年ほど前の石川県生物多様性戦略ビジョンでトキが群れ飛ぶような石川県にする等、県の重要な文章にたくさんでてきます。

トキについては、分散飼育の推進、環境教育のなかでたくさん努力しているが、一つ欠けているのは、実際にトキがたくさん飛んできているので、石川県の中で繁殖できるような里山の環境を良くしていくようなことも同時にやっていかないと、せっかく来たトキがまたどこかへ行ってしまうとか、コウノトリもそうです。何回も来ています。

里山の環境を良くして、森林の管理の仕方も改善していけば、おそらくそう難しくなくトキやコウノトリが石川県で繁殖していくと思う。そうすると大きなアピールになると思う。ですからぜひ自然環境の改善、農業林業と一緒にした改善をできるようなことについても、こういう文書に書いたらどうか。

(会長)

1つは、データブックをはじめとする数値をできるだけ皆さんに分かるように可視化してほしい、2つめは、例えば石川県内に飛来するトキが住めるような自然環境改善にも努力してほしいというご意見でしたね。

(委員)

佐渡ではトキが300羽くらいたくさん飛んでいます。豊岡のコウノトリも現場で話を聞くと満員です。「それが分散して繁殖できる場所を作ってほしい、石川県は候補の1つだ」と関係者が言っていることを追加したい。

(生活環境部長)

委員のデータの可視化というのは重要であると思っておりますし、分析するにあたりまして今 AI の活用ということになっておりますので、多少時間はかかるかと思っておりますけど、そういう方向で検討させていただきたいと思っております。クマの出没情報については、すでに目撃情報をいただいております、それをホームページ上に公表しております、ぜひ皆さんお

気をつけていただきたいと思います。里山の保全等につきましては、いしかわ版の里山づくりISOで推進しております。企業や団体のご協力をいただいて、活用していただいている団体、ボランティアの方が徐々に増えているところではございますけれども、一層頑張っていきたいと考えております。

(委員)

2頁の循環型社会の形成の中の、プラスチック資源循環の推進の具体的なことだと思うのですが、買い物のところでばら売りとか量り売りとかを進めるというのが流れだと思うのですが、コロナの状況ですから、例えば焼き立てのパン屋さんにしても一つ一つプラスチックの袋に入っているというような状況ですので、今後進めることは今難しいと思います。となるとやはり出口のところの対策となります。海洋プラスチックのほとんどはポイ捨てのものが川から海へ流れていく。ポイ捨てに対する対策というのが何かとれないのか。なかなか海岸清掃とか河川での清掃活動だけでは間に合わないと思いますので、可能であればポイ捨ての禁止の条例などというものがあがっていてもいいのではないかと考えておりますので、ぜひ検討いただければと思います。

それから、本来でしたら環境フェアが行われていたはずですがけれども、今年中止となりました。ここは夏休みの親子が来て学習したりというふうなことで毎年盛況なのですが、今年それができないということで、企業の方の取組やNPOの取組といったものが県民の皆さんに簡単に見ただけのもので情報発信できればと思います。環境フェアに代わる何か情報サイト等そういったものがぜひ充実できれば、日常的にリモートでものを見たりということが盛んになってきているという状況ですので、そういったこともお考えいただければと思います。

(会長)

ポイ捨て対策を例えば条例などで何かできないかということと、環境フェアに代わる何かサイトができないかということでした。

(生活環境部次長)

ポイ捨て関係ということですが、もちろん決して許されるものではありません。すでにふるさと石川の環境を守り育てる条例の中にも書いてあることとございますし、市町の条例の中で、ものによっては過料もあります。引き続きこういうことを周知していきたいと思っております。

もう一点ございました、いしかわ環境フェアの代替の検討でございます。今後、環境フェアに代わるものはできないかしっかり検討してまいります。

最後にもう一点ございました、個包装が増えているということで個別の対策はないのかというところでもあります。不法投棄の防止もその前にリサイクルを推進することが大事だと思っておりますので、進めていきたいと思っております。

(委員)

1枚目の地球環境の保全の関係で、今日も大変暑いわけですが、猛暑日とか気象情報でも毎日30度を超えるような情報がありますけど、やはり、それが熱中症とどう結びついているかということに関しては、最高気温とその日の患者数くらいは出ていますけれど、先ほどAI

の活用というお話もありましたけど、かなり県内の細かい部分も出ていますので、そういう地図上に、どこでそういう状態で発生したかというのを積み重ねていくと、もう少し県民の方へのアピールというか、具体的な緊張感を持って注意できるのではないかと。その辺も検討していただければと思います。

(委員)

資料3の3 自然と人との共生で、最後の野生鳥獣の保護管理の推進で、捕獲の担い手となる狩猟者の確保育成を図るというところで、女性を対象とした狩猟の魅力体験ツアーについてです。参加対象者をことさら女性を対象を絞ったということが、非常に唐突感がありますが、その政策的な背景をお聞かせ願いたい。

もし仮に、ジェンダーの視点、女性活躍の視点でこれを入れていращやるのであれば、例えば里山ファンドの審査基準の中にジェンダーの視点を入れていただくとか、主流化という意味で、例えばトイレを建て替えるときや、障害者が使い易いようにというような、あらゆる所に女性という視点を入れていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(生活環境部長)

適切な答えかわかりませんが、狩猟者の確保につきましては、これまでもセミナーを開催しておりまして、そうした中で他県では、女性を対象とした狩猟ツアーの中で、ジビエの活用や革細工を作る体験など、さらに狩猟の魅力を体験できるような取組みがありましたので、特に他意はないのですが、本県では他県の例を参考にしながら、狩猟者の確保につながればということで実施したいと考えております。

(委員)

みんな女性の狩猟者を呼びます、ということではないんですね。であれば、特に女性に限る必要はないのではと思いますが。

(会長)

お答えいただいた環境施策の取組に関しては、この3月に策定した環境総合計画にかなり踏み込んだ内容を反映しているということであり、今日のようなご意見をいただけたというのは、大変よかったと思っています。

7 閉 会